

# CMSC JOURNAL

Vol.7



◀山内伸弥選手 第6戦のアドバン山内・山口組スタリオン▶

▼第6戦のアドバン羽豆・丸山組スタリオン 羽豆宏一選手▶



## '85 JAF全日本ラリー選手権 めざせチャンプ! 先鋭ラリーストたち



▲第3戦のアドバン大庭・小田切組スタリオン 大庭誠介選手▶



◀藤田哲也選手 第3戦のCMSC福島 藤田・吉田組ランサー▶



▼第5戦のCMSC栃木 亀田・中村組ランサー 亀田恒夫選手▶



◀大西康弘選手 第6戦のCMSC青森 大西・村上組ランサー▶

# スタリオン、堂々デビュー! 第4戦2位、第5戦5位、第6戦2・3位 CMSC勢ランサー、第4戦5・8・10位、第6戦9位

## スタリオン、ポテンシャルを実証 第3戦“関西ラリー'85”

約1カ月半のひと休みも、スタリオンラリー車発表会準備やらであっという間に過ぎてしまった。あの発表会では、久しぶりに各支部の方々とお目にかかれて楽しい時を過ごせた。当日、ラリー出場のために早く帰ったCMSC岐阜のメンバー、そしてラリー開催のために参加もできなかったCMSC香川の方々、本当にゴメンナサイ。

さてJAF戦第3戦は、日本版ツールドコルス・ターマックスペシャルの珍しいラリー、“関西ラリー'85”。話題はニューカーのスタリオンとフェアレディZ、そして昨年までの地元スペシャルリスト・ゴーチン、ハットトリックを達成し、4連覇成るか?であった。

第1ステージはスポーツピア大和でのダートトライアル2本。昨年はいわれわれ羽豆チームが1位となっている。でも羽豆選手がスタリオンに乗るのは天理市のスタート地点が初めてだ。さて、今年はどうなるのやら…。しかし走り出してしまえばそんな心配も振り切り、ADVANスタリオンを手足のように操って(?)見事2位のタイム。このラリーにわれらがCMSC勢は、福島藤田選手、そしてここまでのJAF戦ポイントリーダー、青森の大西選手が、いずれもランサーを駆って出場。ギャラリーは早くも藤田選手の迫力ある走りどきも抜かれたようで、土手からころげ落ちる人まで出る始末であった。今年はタイヤサービスの回数も増え、いつもと違いCPカードを持つてのスタート。なんとなく海外ラリーの気分である。

さて本番の第2ステージ。伊賀上野のサービスエリアをスタートして、SS3はキャンセル、SS4手前で時間調整。コルディア4WDで2戦連続3位に入賞し気を良くしている松本選手、今回からは86。スベーカーをつぶし(?)十分に練習を積んで今回こそは3位以上の入賞を、と狙っている。われわれは練習無し、車も初めて。これでは…?と思いつつも頑張るゾ!とスタート。10カ所のSSを終え、再びサービスエリアへ戻る。日下部コルディアが右リ

ヤサイドを大きくへこませて止まっていた。

初めてのスタリオンもなんとか感じをつかみ、気合いを入れて再スタート。前は綾部選手。2ステでは大きく離れていたが、3ステに入ってタイムを比べると、ほぼ同じ。よし、これならいける!16SS、今井林道を終わり右コーナーを3rd全開で行き、続く大きなゆるい左コーナーもこのまま全開!ところが出口は直角左コーナー!!右はガケ下!!あつという間にガケとキス。われわれの関西ラリーは終わった。右テンションロッド折損、ロワーアーム破損、リヤロワーアーム曲り、その他板金数カ所、という結末。しかし、スタリオンは速い!

結果は驚異のゴーチン4連勝!松本選手連続3位入賞、そして健闘の大庭スタリオンが6位。藤田選手と大西選手は修理代の請求書が目に見えかぶ!

## 羽豆スタリオン2位 CMSC 福島・藤田ランサー5位 第4戦“ACKスプリングラリー'85”

いよいよ本格シーズンインの第4戦は九州を舞台に、“ACKスプリングラリー'85”。過去3年、2位2回、優勝1回と、われわれにはツキのあるラリーである。CMSC勢は藤田・大西両選手に加え、栃木からあの亀田選手もランサー勢に加わる。それに、突貫工事で修理なった日下部コルディア4WDと、三菱車が多く心強い。

好天の城島高原に勢揃いしたラリー車の姿、実にまぶしい。1ステは、ハイアベ区間とローアベ区間の組み合わせのオーソドックスなラリー。ダート用のサス設定を急ぐため、3台のADVANスタリオンは各車異なる仕様となっている。羽豆車のサスは好みに合っていないようで、どうも調子に乗り切れないままサービスポイントへ戻る。

第2ステージはSSのみ。早速サス交換をして準備に入る。例年、SSステージで挽回して上位に入賞しているので、これから勝負。ゼッケン1のため後続車のタイムがわからず、ペースの見当がつかないがかなりのペースで2ステを終了。ゴールするドライバーたちから情報を集める。1ステの上位



車の多くがリタイアとのこと。“2連勝かな?”と秘かに期待して表彰式を待つ。大西・藤田・亀田らのランサー勢も無事ゴール。みんな、かなり良いポジションにつけていそうである。

結果。期待は見事に裏切られ、群馬スペシャルリストの石田(正)選手が優勝、羽豆スタリオンは2位。藤田・亀田・大西のランサートリオはそれぞれ5・8・10位に入賞。久々に10位中4台が三菱車という素晴らしい成績である。

## 大庭スタリオン5位 第5戦“ツールド四国'85”

リタイア・2位・リタイア・2位というのが4戦までの結果。このパターンでいくと次はリタイア?などは少しも考えず、四国こそは!との思いで松山入り。第5戦“ツールド四国'85”。

スタート地点、まわりに何も無い伊予厚生年金会館でおとなしくスタートを待つ。今年のJAF戦、ラリーアートからは須賀さんが毎回取材に来ていた。取材のサポートは、CMSC香川の田中さん。名物の讃岐うどんとともに、5時間の道のりを駆けつけてくれた。うどんをごちそうさま、とってもおいしかったですよ。

今年のツールド四国は、例年と異なり関西ラリー方式の、再スタートハイアベとトランスポート区間と継いだ、要はSSばかりの、それにターマック区間が半数を占めるラリーで、まるで関西ラリーパートII。

SS1をスタートすると半ばでコース脇に伸弥スタリオンが止まっている。早くもリタイア。今年の伸弥はいったいどうしたのか? 1ステの後半はターマック区間となるため、トランスポート区間でのタイヤ交換が勝負となる。

トランスポート区間がどのくらいあるかは、当然事前にはわからないはずであるが、関西ラリーを制したトリオはしっかりタイヤ交換を実施。

ターマックに自信をもつゴーチンが快走している。期待の15インチのNewタイヤも、ターマックが多くては勝負にならず、1ステを終わって15位あたりに低迷。ジャンケンに勝ってHF-Dを選んで大庭選手がスタートから好走、まずまずのポジション。美川スキー場でサービスを受け、HF-D4本を積みこんでスタート。…したのもつかの間、1本目のSSゴールひとつ手前のコーナーで、調子に乗ってインを取めたところに大岩!! あっけなくリタイア。昨年といい、この美川スキー場から先には進めないようである。

これで、予定のパターン(?)。結果はまさに関西ラリーパートIIで、ゴーチン・誠・前島選手がそれぞれ1・2・3位。大庭選手はタイヤバーストがあったにもかかわらず、地元永井選手について5位。伸弥が不調のときは大庭選手が頑張るというパターンができあがりつつある。前回好調のランサートリオも今回はふるわず、藤田・大西両選手はバースト・リタイア、亀田選手が17位にとどまった。

さて今回は再び九州にて、ツールド九州。パターンどおりなら2位だが、小生はランサーでマレーシアラリーに遠征のための不参加となった。あのケンジロー選手と海外遠征、合わせてコルディア4WDが伸弥/小田切組で出場。ランサーとコルディアの2カーエントリー、“チーム・ラリーアート”の海外遠征に乞うご期待!